



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・森田宛
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 愛南町の医療にふれる会

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

「愛南町の医療にふれる会」が平成 28 年 8 月 2-3 日に開催され、学生と一緒に参加した。愛媛の最南端の地で展開されている水産業における養殖をはじめとした先駆的な取り組み、豊富な観光資源の活用など医療面以外の様々な取り組みをご紹介いただいた。医療は人が生きて行く上で、どこの地域においてもなくてはならない資源である。現在活躍されている医師からも地域医療に関する取り組みや魅力について熱い思いの説明を受け、参加した学生も地域医療への動機付けに大いになったと思われる。この地域は、愛媛県内では最も医師不足の深刻な地域であり、地域医療に携わる我々が丸となって対策を講じていくべきところである。



★2 <2016 年日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部学術大会・

四国地域医療研究会・第 16 回愛媛プライマリ・ケア研究会 合同集会>

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

◆◆◆ 開催のご案内 ◆◆◆

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、2016 年日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部学術大会を下記のとおり愛媛県松山市で開催することとなりました。

今回は宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授になられた吉村 学先生にお越しいただき「地域医療におけるごちゃまぜ IPE 実習」(仮題)をテーマにご講演いただく予定です。また、一般演題に加えてポートフォリオ大会・臨床推論と盛りだくさんの内容を予定させていただきます。

多数の皆様のご参加をお待ち申し上げております。尚、参加ご希望の方は、申込用紙に入力していただき、平成 28 年 9 月 30 日(金)までに E メールでお申込み下さいませようお願い申し上げます。

記

日 時 平成 28 年 11 月 12 日 (土)・13 日 (日)
場 所 愛媛県看護協会 大研修室 (愛媛県松山市道後 2 丁目 11-14) (愛媛県民文化会館 (ひめぎんホールの道を隔てて東側))
日 程

- 【第 1 日目】11 月 12 日 (土)
- ① 開会挨拶 (14:00~14:30)
 - ② 一般演題 (14:30~17:00)
 - ③ 理事長講演 (17:00~18:00) 予定「日本プライマリ・ケア連合学会のこれから」(仮題) 丸山 泉先生 (学会理事長)
 - ④ 特別講演 (18:00~19:00)「地域医療におけるごちゃまぜ IPE 実習」(仮題) 吉村 学先生 (宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授)
 - ⑤ 懇親会 (19:30~21:30) 道後山の手ホテル (〒790-0836 愛媛県松山市道後鷺谷町 1-13 電話：089-998-2111)
…会場までは約 10 分道後温泉を散策しながら徒歩でお願いします。

- 【第 2 日目】11 月 13 日 (日)
- ① ポートフォリオ大会 (09:00~10:00)
 - ② 臨床推論 (10:00~10:30)
 - ③ 一般演題 (10:30~12:30)
 - ④ 閉会挨拶 (12:30~12:35) 次回開催県支部長
 - ⑤ 第 8 回 日本プライマリ・ケア連合学会学術大会準備会 (13:00~15:30)
—参加費— 2 日間通して 2,000 円 (当日徴収) ただし、学生は無料
—懇親会— 5,000 円 (要事前予約、会費は当日徴収)

問合せ・申込み先：
愛媛大学医学部地域医療学講座 西予市サテライトセンター 岡山陽子
〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53
TEL : 0894-72-0180 FAX:0894-72-0938 E-MAIL : okayama.yoko.my@ehime-u.ac.jp

★3 第30回高知臨床推論ケースカンファレンスに松村正巳先生を招聘

高知総合診療・病態診断研究会世話人 佐野内科リハビリテーションクリニック 佐野 良仁

第30回高知臨床推論ケースカンファレンスが、7月9日(土)15時~18時に高知医療センター2階・くろしおホールで開催されました。今回の特別講演には、自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門教授・松村正巳先生をお招きしました。

当日、40名の参加者が来場してくださりました。今回、松村先生の講義は、『診断のプロセスとエラー』というタイトルでお話をいただきました。臨床医として日常的に、何気なく診断していますが、そのプロセスの病歴聴取は、①患者に起こった身体上の問題を医学的概念に置換し(Translate) ②時間経過に沿って(Timeline) ③編集した患者の物語である(Edit)、とのことです。私たち臨床医にも再確認するのに分かりやすく、大変勉強になる内容でした。

また、診断のエラーに関わるバイアスについて、こちらが臨床医にとって本当に切実な問題ですが、①代表的バイアス：典型的と思われる疾患の確率を過大に評価してしまう、②利用可能性バイアス：想起しやすい疾患を優先してしまう、③アンカリング：一つの仮説に囚われて他の可能性を軽視する、④思考の早期閉鎖：早期に「これだ」と結論を出し、他の可能性を考えない、⑤確証バイアス：仮説を支持するデータを集め、支持しないものは無視してしまう。それらの具体例を挙げながら、判りやすく説明してくださり、「あるある…」と思いながら聞き、自己内省していました。

講演の後、後半は、ケースカンファレンスを1題行いました。症例提示は、高知大学医学部附属病院総合診療部・病院教授・武内世生先生の司会進行にて、高知大学医学部附属病院研修医1年目の赤川さんが提示しました。「足が腫れる」という主訴で、他院から紹介来院した80歳代女性の症例でした。松村先生には、この症例についての事前情報はお伝えせずに伏せたままで、「松村先生ならばどのように考えながら、どのような視点で問診と診察をして、疾患の推定からどのようにして確定診断に至るか」ということを、カンファレンスの中で実際に示していただきました。症例の詳細は割愛しますが、実際の思考プロセスを言語化して解説を加えながら進行してくださり、大変勉強になりました。

この勉強会は、医学生や研修医を対象ですが、実際には、現場ですでに臨床をしている医師にとって知識をブラッシュアップすることに大いに役立つ勉強会を意識しています。基本的にあてられて発言を求められるのは医学生や研修医ですから、指導医や実地医家の私達は安心して後方で聞きながら勉強できます。それにしても、昨今の医学生や研修医の知識は、自分の学生時代よりもずっとよく勉強している、と感心させられます。

高知では年4回、「高知臨床推論ケースカンファレンス」を開催中です。次回は9月17日(土)に諏訪中央病院・山中克郎先生、次回は10月30日(日)に千葉大学総合診療部・上原孝紀先生をお招きし、来年1月は現在検討中です。興味のある方・参加ご希望の方は、世話人・佐野良仁(E-mail: sanoreha.m.c@gmail.com)まで、お問い合わせください。県内・県外を問いません。一緒に勉強したい方、大歓迎です。



★4 地域に必要とされる薬剤師を目指して～見学実習で感じたプライマリ・ケア～

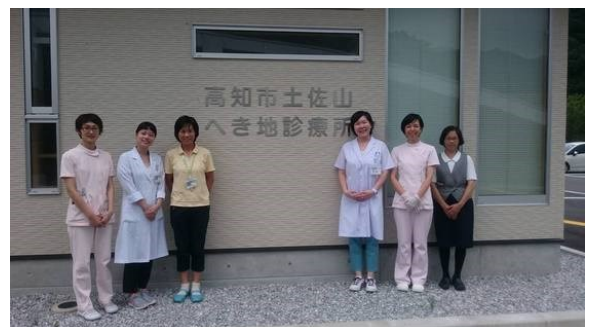
特定医療法人長生会大井田病院 薬剤師 所谷美和

今回私はプライマリ・ケア認定薬剤師の資格取得に必要な見学実習を、高知市の土佐山へき地診療所で4日間行いました。ここは高知大学医学部家庭医療学講座が高知市との協定に基づいて運営を行っています。

実習では診察の様子をみて、患者さんと先生との関係を垣間見る事ができました。病気としては内科、整形外科、小児科の疾患など幅広く対応されていました。また、訪問看護ステーションのスタッフから患者さんの服薬アドヒアランスに関わる相談を医師が直接受け、その患者さんにとって一番必要な事は何かという事を協議する場面もありました。自宅での介護調査への同行や、健康福祉センター「たきゆり」で、施設が提供するサービスについても学びました。予定していた訪問診療は都合が合わず行くことができませんでしたが、先生方からは海外での家庭医が果たす役割や土佐山での医療の仕組みなど普段聞くことのできない話をじっくりと伺うことができました。診察の際、医師は診察をサポートする「住民カルテ」を活用していました。「患者」ではなく「住民」。たった二文字の言葉ですが、病気を治すだけでなく、住民の病気の向こう側にある生活や人生を診る。診療所が果たす役割は単に身体的治療だけではなく、精神的及び社会的要素も含んだ住民の健康を守ることでもあるのです。隣接する社会福祉協議会のスタッフとの定期的なミーティングにも同席しましたが、全てのスタッフが住民の身体的問題以外の、社会的問題についても情報共有し、必要なら介入を行う。その姿勢にプライマリ・ケアの本質をみました。

病院薬剤師である私は、「病気を治す」という事に重きをおきがちで、薬剤師の仕事としても薬物治療を中心に患者のアドヒアランスの維持及び向上のサポートを行っています。しかし、病院としての機能上、入院している間だけの介入となってしまう現状があります。病院薬剤師として、プライマリ・ケアに関わる事とはどういうことなのか。地域及び住民の健康の維持・向上に貢献できる事とはどういうことなのか。それは、薬局薬剤師ができる事とは異なるかもしれません。しかし、地域を守る薬剤師として、最終目標は「患者さんの健康」である事に変わりはありません。

自分の中のこれからのビジョンは、プライマリ・ケアを肌で感じる事ができたこの実習で更に広がり明確となりました。薬薬連携(病院薬剤師と薬局薬剤師との連携)のみでなく、医師と保険薬局の連携、医師と患者をつなぐことや地域包括支援センターや居宅事業所



とも連携することが可能かもしれません。そういった地域に必要とされる「かかりつけ薬剤師」を目指したいです。私が生活する宿毛市も、医師・薬剤師をはじめマンパワーが不足していますが、限られた資源を有効活用し、多職種連携、住民を巻き込んだ健康の維持向上の一助となれるよう取り組んでいきたいと思っております。今回の実習の指導医でもある西村真紀先生をはじめ高知大学医学部家庭医療学講座の先生方、診療所のスタッフの皆さん、支援センターの方々、本当にありがとうございました。そして私の思いを受け、サポートしてくれた大井田病院のスタッフの皆さん、ありがとうございました。

★5 日本プライマリ・ケア連合学会・第8回学術大会実行委員会開催

四国ブロック支部事務局長・副支部長 大原昌樹

盛会裏に終わった第7回日本PC学会学術集会浅草大会から2週間目の平成28年6月27日(日)午後、実際の会場である高松サンポートホール会議室で第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会実行委員会(平成29年5月13~14日、大会長:板東、実行委員長:大原)を開催しました。四国四県から40名の実行委員の多くが集まり、井垣PC学会事務局長、運営事務局のリンケージにも参加いただきました。実行委員会メンバーを確定するとともに、分担を決めました。各担当名と責任者は、総務・財務:大原、プログラム:阿波谷副大会長、査読:川本副大会長、式典・懇親会:西村理事、会場・協賛:澤田副大会長となり、各責任者が中心となって企画を考えていくこととしました。その後、担当グループ毎で話し合いましたが、特に会場担当のグループは、会場全体を回り、問題点を確認しました。

実行委員会後は、各グループからメーリングリストなどに意見を出してもらい、7月18日(月・祝)午後には陶病院会議室に、大会長、実行委員長、副大会長、井垣PC学会事務局長、リンケージ(運営事務局)が集まり、それを元に細かい点を詰めていきました。特に、プログラムの企画やリーフレットの内容が議論の中心でした。プログラムは、今回のテーマに関連したものや四国らしい企画など実行委員会企画プログラムの案と責任者を決めるとともに、特別講演講師を議論し、今後、阿波谷副大会長に調整していただくこととなりました。リーフレットは、9月の学会誌に同封して各会員に配布されますが、ワークショップ企画は9月募集開始、一般演題と大会参加受付は12月1日開始となります。是非、多くの方にご参加いただき、また、演題発表もお願いしたいと思います。

これからも順次準備を進め、会員に役立つ学術大会になるように努力したいと思いますので、ご協力よろしくお願いたします。

★6 第1回 とくしま総合診療医共育道場開催

徳島大学大学院総合診療医学分野/徳島健生病院 大倉佳宏

2016年6月29日、徳島大学大学院総合診療医学分野主催で「第一回とくしま総合診療医共育道場」を行いましたので報告します。この名前には、「徳島県内の家庭医療専門医・総合診療専門医研修をより実りのある研修となるよう、専攻医と指導医が共に育つことができるような勉強会にしたい!」との思いを込められています。

記念すべき第一回である今回は、徳島県立海部病院にて開催し、内容は2部構成で行いました。第1部は「家庭医・総合診療医とは?」と題して家庭医・総合医の特徴や、どのような医師像を目指すのかについて話をしました。第2部は「ポートフォリオについて」と題して、ポートフォリオの原則や作成する際の注意点など、私自身の家庭医療後期研修などの経験をもとに講演しました。また、実際に専攻医が症例のプレゼンテーションを行いそれに対してポートフォリオ作成指導のデモなども行いました。

今回の共育道場には、海部病院の研修医と指導医だけでなく県南の研修病院を中心に指導医にも声をかけて集まっていたいただき、遅い時間ながら合計16名の参加があり、大いに盛り上がりました。

最後になりましたが、四国支部のニュースレターには初登場ですので、自己紹介をさせていただきます。私こと大倉は、2006年から岡山家庭医療センターで家庭医療後期研修を受け、2009年に家庭医療専門医取得しました。そして、縁あって今年4月から徳島に転居し、徳島大学大学院総合診療医学分野に入学しました。今年は、県立海部病院を中心に研修を行った「徳島県産」家庭医療専門医第一号が誕生する予定です。今後もこの「共育道場」も継続して行い、第2回、第3回と回を重ねていきたいと思っております!徳島県の総合診療医育成は、これからますます盛り上がっていきますよ!



★7 第18回 徳島地域医療教育研究会開催

徳島大学大学院総合診療医学分野 谷憲治

2016年7月9日、徳島地域医療教育研究会が徳島市内のホテルで開催されました。徳島の地域医療教育のレベル向上を目指して2008年に総合診療医学分野が主催で開始し、年に2回定期的に開催してきたこの会も今回で第18回目を迎えました。サークル「地域医療研究会」のメンバーを中心とした医学生と実習指導に関わる地域医療機関の指導者が参加し、総合診療医学分野の教室員とともによりよい地域医療実習を目指した知識の共有や情報交換を図るとともに、医学生と指導医との親睦を図る機会になっています。今回は、家庭医療と総合診療をテーマとした2つの講演が行われ、最初に総合診療医学分野の谷教授が「総合診療専門医と家庭医療専門医について~新専門医制度に向けての取り組み~」のタイトルで来年度からの専門医制度の動向について紹介し、引き続いて日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭



医療専門医の大倉佳宏医師が「徳島で優れた総合医・家庭医を育成するために」のタイトルで地域医療に貢献できる人材育成に関する内容の発表がありました。医学生 25 名と医師等 30 名、総数 55 名が参加し、研究会およびその後の親睦会において活発な意見交換がなされ、これからの本県の地域医療・総合診療の発展が期待される会となりました。

★8 阿波踊り「地医輝連」の夏 2016

徳島大学大学院総合診療医学分野 谷憲治

今年も 8 月 14 日に医学生サークル「地域医療研究会」のメンバーによる「地医輝連 (ちいきれん)」が徳島市内の演舞場で阿波踊りの乱舞を披露しました。7 年前に有名連である蜂須賀連の支援を受けて結成された「地医輝連」は、「地域医療が輝くように」との願いで名付けられ、徳島の地域の自然を医学生たち自身で描いたオリジナル浴衣に身を包み、総合診療医学分野の医師達とともに蜂須賀連の鳴り物をバックに踊ります。

徳島市内の有料演舞場では大勢の観客の前で「夢は地域の総合医、阿波の医療は任せとけ」と叫びながら踊り抜けます。5 年前からは徳島県出身の自治医科大学の「自治医大連」と合同連を結成し、一緒に踊ることで、将来共に徳島の地域医療を支えていく仲間意識を持つ気持ちを高めています。

事前の準備や本番の踊りでは地域医療機関の先生方に大きな支援をいただいております、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



★9 【第1回四国地方プライマリ・ケア交流会】の案内

日本PC連合学会学生・研修医部会 四国支部長 (愛媛大学5年) 田中いつみ

初めまして。私は日本プライマリ・ケア連合学会学生・研修医部会 四国支部長を務めております愛媛大学医学部5年の田中いつみと申します。この度は下のイベントについてお知らせしたいと思います。

会の最後に学生と先生方との懇親会を企画しておりその時にぜひ、臨床でのお話を学生にさせていただければと思います。学生が企画する四国地方では初めての試みですので、何かと至らぬ点も多いかと思いますが、ご参加検討していただけますようよろしくお願いいたします。参加いただけます方は以下のフォームより登録をよろしくお願いいたします。

<https://goo.gl/forms/fZgKyJaskXFT8MQ93>

< 記 >

【第1回四国地方プライマリ・ケア交流会】

- 趣旨・目的：昨今、医学生の間で関心が高まっている家庭医療・総合診療ですが、いざ学ぼうとしてもどこで情報が得られるのかわからないという問題を学生は抱えております。特に四国地方では県を超えて学生が交流する機会が殆どないといった状況が続いておりました。そのような学生達に学びの場所を提供する、学生間及び学生-先生間の繋がりを作ることを目的としております。
- 日時： 2016年 **10月1日(土)** 10:00-20:00
- 場所： **愛媛大学重信キャンパス**
- 内容： 10:00-10:30 開会式、アイスブレイク
10:40-12:00 全体講演、パネルディスカッション
12:00-13:00 ランチョンセッション
13:10-14:30 WS1
14:40-16:00 WS2
16:10-17:00 まとめセッション、閉会式
17:30-20:00 懇親会 (ノンアルコールな予定です。)
(※タイムスケジュールは変更可能性あり)
- 講師：【全体講演】高知大学 家庭医療学講座 特任准教授 西村真紀先生
【予防医学とヘルスプロモーション】 医療法人鉄蕉会亀田ファミリークリニック館山 年森慎一先生 (愛媛大学卒)
医療法人鉄蕉会亀田ファミリークリニック館山 河南真吾先生 (徳島大学卒)
【患者教育と行動変容】 岡山家庭医療センター 山内優輔先生 (愛媛大学卒)
岡山家庭医療センター 和田嵩平先生
【Bio-Psycho-Social モデル】 愛媛生協病院 水本潤希先生
【勉強会の開き方、勉強会の魅力】(仮) 東京ベイ・浦安市川医療センター 東野誠先生 (愛媛大学卒)
- 対象者：プライマリ・ケア、家庭医療、地域医療に興味のある学生
- 主催：日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会 四国支部
- 共催：愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座、高知大学医学部サークル ARMS、
香川大学医学部サークル IRM、徳島大学医学部地域医療研究会、愛媛大学医学部サークル